TADOKU JUNIOR イソップ物語 ★★★☆☆ ふつう 290語

The Wolf and the Kid

オオカミと子ヤギ

Aesop（1919年の本） 原文そのまま 朗読：Bob Neufeld

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ むれからはぐれた子ヤギが、オオカミに見つかってしまいます。たすからないと思った子ヤギは、ある知えをはたらかせて……。

There was once a little Kid whose growing horns made him think he was a grown-up Billy Goat and able to take care of himself. So one evening when the flock started home from the pasture and his mother called, the Kid paid no heed and kept right on nibbling the tender grass. A little later when he lifted his head, the flock was gone.

He was all alone. The sun was sinking. Long shadows came creeping over the ground. A chilly little wind came creeping with them making scary noises in the grass. The Kid shivered as he thought of the terrible Wolf. Then he started wildly over the field, bleating for his mother. But not half-way, near a clump of trees, there was the Wolf!

The Kid knew there was little hope for him.

"Please, Mr. Wolf," he said trembling, "I know you are going to eat me. But first please pipe me a tune, for I want to dance and be merry as long as I can."

The Wolf liked the idea of a little music before eating, so he struck up a merry tune and the Kid leaped and frisked gaily.

Meanwhile, the flock was moving slowly homeward. In the still evening air the Wolf's piping carried far. The Shepherd Dogs pricked up their ears. They recognized the song the Wolf sings before a feast, and in a moment they were racing back to the pasture. The Wolf's song ended suddenly, and as he ran, with the Dogs at his heels, he called himself a fool for turning piper to please a Kid, when he should have stuck to his butcher's trade.

Do not let anything turn you from your purpose.



THE WOLF AND THE KID

むかし、1ぴきの小さな子ヤギがいました。つのがのびてきたので、もう大人のおすヤギになったつもりで、自分のことは自分でできると思っていました。そこで、ある夕方、ヤギのむれが野原から家へ帰りはじめ、お母さんによばれたときも、子ヤギは知らん顔で、やわらかい草をむしゃむしゃ食べつづけました。しばらくして顔を上げると、むれはいなくなっていました。

ひとりぼっちです。お日さまがしずんでいきます。長いかげが、地面の上をじわじわとのびてきました。かげといっしょに、つめたい風もそっとやってきて、草の中でこわい音をたてました。おそろしいオオカミのことを思い出して、子ヤギはぶるぶるふるえました。そして、メエメエとお母さんをよびながら、野原をむちゅうで走りだしました。ところが、まだ半分も行かないうちに、木のしげみのそばに、なんとオオカミがいたのです！

子ヤギは、もうたすからないだろうと思いました。

「オオカミさん、おねがいです」と子ヤギはふるえながら言いました。「ぼくを食べるつもりなのはわかっています。でもその前に、笛を1きょくふいてください。できるだけ長く、楽しくおどっていたいんです。」

オオカミは、食べる前にちょっと音楽を聞くのもいいなと思い、楽しい曲をふきはじめました。子ヤギはぴょんぴょんと元気にとびはねました。

そのころ、ヤギのむれは、ゆっくりと家へむかっていました。しずかな夕方の空気の中を、オオカミの笛の音は遠くまでひびきました。ひつじかいの犬たちが、耳をぴんと立てました。それがオオカミがごちそうの前にうたう歌だとわかったので、犬たちはすぐさま野原へかけもどりました。オオカミの歌はとつぜん止まりました。犬たちにおいかけられてにげながら、オオカミは「子ヤギをよろこばせるために笛ふきなんかになって、ばかだった。いつものえものとりにてっしていればよかったのに」と思いました。

何があっても、自分のやるべきことからそれてはいけません。

オオカミと子ヤギ

たんご と クイズ オオカミと子ヤギ

horns つの	**grass** 草	**sun** お日さま
shadows かげ	**Wolf** オオカミ	**dance** おどる
Dogs 犬		

Q1 子ヤギがむれからはぐれたのはどうして？

① ねむってしまったから　② 草を食べつづけていたから　③ 道にまよったから

Q2 子ヤギはオオカミに何をおねがいした？

① 笛をふいてほしい　② 家に帰してほしい　③ 草を食べさせてほしい

こたえ

Q1 ② お母さんによばれても知らん顔で、やわらかい草を食べつづけていたので、むれがいなくなってしまいました。

Q2 ① 食べられる前に、笛を1きょくふいてくださいとおねがいしました。そのあいだ、楽しくおどりたかったのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Bob Neufeld（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。